

第3回 2025年大阪・関西万博 成果検証委員会  
議事要旨

日時：令和8年4月27日（月）14:00～15:50

場所：経済産業省本館12階特別会議室及びオンライン

<議事次第>

報告書（案）について

<配布資料>

資料1 議事次第

資料2 報告書（案）

<議事概要>

○本日はご多忙の中、成果検証委員会にお集まりいただき感謝。先日、大阪で開催された第1回未来創造会議にオンラインで出席し、大阪・関西におけるレガシー展開を一体的に推進する体制が整いつつあることを心強く感じるとともに、万博の成果を一過性のものとせず、将来にわたり継承していくレガシーの重要性を改めて認識した。前回の委員会では、万博で生まれた「つながり」の活用、創造活動の深化・展開、夢洲の「場の記憶」の継承という三つの柱を基本方針として議論いただいた。本日は、一連の議論を踏まえ、剰余金の活用方針を含む報告書（案）について議論いただきたい。これまでと同様、忌憚のないご意見をお願いしたい。【井野 副大臣冒頭挨拶】

資料1、資料2を事務局より説明をした上で討議を行った。委員からの主な意見は以下のとおり。（順不同）

○大阪・関西万博のレガシー展開の柱の一つである、万博で創られた「つながり」の拡大・発展に関連し、「最先端技術等の実装化・産業化」の項目にコメントを追記いただいたことに感謝申し上げます。これに関連し、研究現場の実感に基づき意見を述べたい。現在、私はAIやコンピューテーションの最前線に身を置いているが、2025年は人類社会にとって不可逆なパラダイムシフトの年になると確信している。本年3月、生成AIのパイオニアを含む国内外のトップ研究者らと集中討議を行った。生成AIの基盤技術を生み出した研究者でさえ、この技術が人類をどこへ導くのか完全に見通すことは困難であるというのが共通した認識であった。その一方で、生成AIの「スケール則」の堅牢性とモデルの巨大化の加速、そして汎用人工知能（AGI）が数年以内に実現するという確信は、専門家間で完全に共有されている。これまで科学は、論文公開と検証というオープンなプロセスで知を積み上げてきた。しかし、生成AIは今、その研究基盤そのもの、いわば科学研究のオペレーティング・システムを根底から変貌させようとしている。とりわけ、自律的に思考し行動するエージェント型AIの登場により、今後2～3年で社会の様相は激変するであろう。後世、2025年はAIを筆頭とする科学技術が人類史を塗り替えた転換点として振り返られ、大阪・関西万博はその歴史的瞬間に立ち会った象徴的イベントとして記憶されるであろう。したがって、レガシー展開においては、この大転換点の中に我々がいるという強烈な当事者意識が不可欠である。専門家ですら予測不能な変化の中で、万博の成果を社会実装・産業化していく鍵は、ひとえにスピードと柔軟性にある。従来型の硬直的な制度設計や支援スキームでは、この激流に取り残される危うさがある。その意味で、各テーマ事業プロデューサーの知見を最大限に活用し、アジャイル（機動的）な実装支援体制を構築していくことに強く期待する。また、日本社会に漂う過度な閉塞感を打破するためには、万博の剰余金を戦略的に活用し、大阪・関西の飛躍を、日本全体を活気づけることへと繋げる視点が重要である。特に、新技術の実装を加速させる「先行投資」としての活用は、極めて大きな政策的意義を持つ。エージェント型AIの台頭、国際秩序の変容、気候変動といった不連続な変化が続く今、人類史の分岐点で開催された万

博の意義を再定義すべきである。ここでの経験と知見が、レガシーとして将来の人類社会へ共有・継承されることを強く願う。【五神委員】

○成果の整理として、万博が多様な分野において、人と人、地域と地域を結びつけ、新たな価値や関係性を生み出したことが分かりやすく示されている。今後のレガシー展開と剰余金の配分、事業実施体制に関しても、3つの柱と2つの軸でうまく整理されている。その上で、今後レガシー展開の具体策を実行し、万博の成果を最大限に活かしていく観点から2点、申し上げたい。1点目は、レガシー展開は、万博の記憶が鮮明なうちに取り組むことが重要である点。大阪・関西ワイドの取組については未来創造会議を主体に具体策の検討が進んでいくと考えられるが、グローバル・ナショナルワイドでの取組については、それぞれの政策を連携させて、全体としての効果を最大化するための枠組みや推進主体を定めて、早期に個々の案件やプロセスの具体化を図り、博覧会協会の清算を待たずに、できることから順次進めていくことが肝要と考える。加えて、グローバル・ナショナルワイドと大阪・関西ワイド双方にまたがる取組については、両者がよく連携して進めていくことが重要である。2点目はレガシー展開のフォローアップについて。万博が公的負担及び民間寄付に支えられたことを踏まえれば、剰余金の配分後にそれぞれの取組がどのように実施され、どのような効果につながったのかを確認する枠組みが必要と考える。一定のフォローアップを行うことで、レガシー展開の効果を高めるとともに、国民に万博のレガシーの全体像を分かりやすく伝えることができると思う。閉幕からはや半年が過ぎたが、世界とのつながりを体感し、未来社会の姿に高揚感を覚えたことを鮮明に思い出す。報告書(案)で示された剰余金を活用したレガシー展開は、2,900万人の来場者が感じた思いを将来世代に受け渡していく大変重要な取組である。未来をつくる子どもたちが、万博で生み出された夢や希望をしっかりと受け継いで、世界を舞台に正々堂々と歩いていくこと、それがひいては日本の成長・発展につながっていくことを強く期待する。【國部委員長】

○万博のレガシーという点においても一度注意を喚起したいのは、これは文化の祭典であったということ。今回の万博のテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」であり、文化といのちのつながりの中で、この大阪・関西万博の成果を考えなければいけないのではないかと思う。国際的には様々な先端機器の生産をめぐって、先進国と発展途上国との間に非常に大きな格差が生まれ、先進国の間でも国際競争が激化し、武力を使った闘争にまで広がっている状況であり、この状況を緩和するための文化の重要性を痛感した万博であった。様々な国の展示を通じて、これまでになかった、様々な科学技術の大規模なマッチングができた。今度の万博でできたのは小さなつながり。グローバル・ナショナルワイドの展開をJETROにお任せするというのは、非常に巧みな考え方だと思う。JETROは中小企業のマッチングに先進的に取り組んでおり、中小企業の海外展開が今回の万博でできたのではないかと思う。技術における競争をあまり表面化させずに、国とのつながり、あるいは企業と企業とのつながり、地域と地域のつながりというものを作っていく契機ができたのではないかと思う。夢洲はこれから陸海空の要衝として、様々な人の移動に使えると思う。夢洲が瀬戸内海に開いているということは非常に重要なことであり、交通網を広げながらやっていくという可能性が開かれたのではないか。人の移動について今後ぜひデザインをお願いしたい。夢洲の跡地の利用で重要なのは、集客するイベントを継続的に開催していくこと、世界の人々を集め、一定期間、関西に滞在してもらえるような企画を実施していくこと。剰余金の活用だけでなく、収益を上げ、交通網を利用して継続的にどんどん開催していく必要がある。そのためには、関西広域に数多ある大学などアカデミアを十分に活用してほしい。そういったもの活用しながら夢洲の提示したメッセージがどれだけ大きく、芸術や文化や学術に広がりができるかということぜひ模索していただきたい。【山極委員】

○大阪・関西万博のレガシー展開(案)において、夢洲の「場の記憶」の継承のなかでソフトウェアコンテンツの整備に触れられているが、万博のデジタルコンテンツを今後どうするのか、この部分でしか触れられていない。万博に関する資料や記録、映像、知見といったソフト面のコンテンツを今後どのように整理し、充実させ、後世に残していくのかという方針も極めて重要である

と考えている。国家的事業として開催された万博である以上、国として万博に関する多様なコンテンツを紙媒体、電子媒体の双方において、どのような方針で収集保存し、体系的にアーカイブ化を進めていくのかということを示すことが必要ではないかと思っている。こうした資料や記録は時間の経過とともに散逸しやすく、後から集めようとしても失われてしまっていることが往々にして起こるからである。また、それらのコンテンツは万博跡地の記念館を訪れた人だけが見ることができるようなものではなく、国内外のどこからでも閲覧できるようにすべきであるとともに、そのような取組こそが万博の成果を広く共有し、次世代へ継承していく真のレガシーの形成につながるものとする。また、万博の評価を行うにあたり、博覧会協会が実施されたアンケート調査の結果が資料に様々な形で掲載されているところ、これらの調査はそのほとんどが来場者を対象としている。これは既に来場された方々の満足度や感想を把握する上で有効である一方、来場を希望しながら断念された方々の声は十分に拾えていない。例えば、万博に強い関心を持ちながらも来場を見送った方々がなぜ断念されたのか、その理由を把握することは、万博の真の評価、さらには今後の改善策を検討する上で極めて重要である。年配の方々との懇談では、行きたかったにも関わらず最初の段階で断念されてしまった理由として、オンライン申し込み・予約が複雑で分かりにくく、途中で諦めてしまったとの声が多量に挙がった。マニュアルも複雑で、読む分量が多かったことが登録する気を削いでしまったようだ。シニア層の方々にとって、個人でオンライン登録を完結させることには一定のハードルが存在していたことは事実であり、この点は課題。したがって、今後に向けてはオンライン手続きに慣れておられない方が多いシニア層も含め、誰もが申し込みやすい仕組みに改善するというようなことについて、ぜひ明記していただきたい。【西尾委員】

○報告書（案）の内容については異論なし。その上で、日本館関係で3点、そしてその他全体を含めた観点で2点コメントさせてもらう。2027年に開催されるベオグラード博に大阪・関西万博の日本館に設置されていたCLTベンチが移設され、日本館で作られていた藻類のスツールが2027年に横浜で開かれる横浜グリーンエキスポで活用されると決まった。日本館のテーマであった循環を実践するこうした取組により、レガシーが継承されることは大変嬉しく思っている。先ほど、この会議の前にベオグラード博、リヤド博に出展する日本館をPRするための撮影も実施してきた。次期博に向けても引き続き、応援メッセージを発信していきたい。循環を実践する国内での取組として、日本館のアテンダントユニフォームをフラワーポットに再生し、大阪府内の高校に寄贈されたと聞いている。大阪・関西万博を機にこうした循環の実践がますます広がっていくことを期待している。次に、前回この会議でお伝えした日本館レガシープロジェクトレポート、日本館レガシーブックが、大阪府下の教育機関に広く配布されるとともに、全国各地でも教材として活用されるような調整が進められている。記憶にとどめるだけでなく、次世代に継承していくための仕組みが構築されつつあることを大変心強く、ありがたく思う。吉村知事、横山市長をはじめ、関係者の皆様には感謝申し上げますとともに、実現に向けて引き続きよろしくお願ひしたい。次に、全体的な観点で、万博は企画や運営に携わった多くの国の方々や来場者が新たな気づきを得て、新しい技術や価値の実現に挑戦する契機となった場であった。そういった「ヒューマンパワー」こそ、万博の大きなレガシーの一つである。活動を続けることにより、次世代に受け継がれていくことが極めて重要である。万博の開幕一周年を機に、当時の万博会場をVRで体験するコンテンツが公開された。日本館ではパビリオン内を追体験できるアーカイブムービーを公開し、万博に来場できなかった方も含め、世界中の方々にも当時の日本館を体験いただいている。最後に、こうしたソフトコンテンツは、来場された方々だけではなく、現地を訪れることができなかつた皆様へも大阪・関西万博の記憶を共有するレガシーとして、非常に重要な役割を果たしている。今後、夢洲をはじめ、各地で進められていく様々な取組において、ソフトコンテンツが有効に活用されることを期待している。【藤原委員】

○大きく2点、1つは博覧会協会に関するもの、1つは全体に関するもの。博覧会協会に関して、万博の成果を表明するための取組が重要と報告書の中に書かれている。イベントを協会だけではなく様々な主体で実施することが大事という部分は全くその通り。博覧会協会の清算期間まで博

覧会協会もしっかり取り組んでいく。先日の開幕1周年記念イベントでも、結果として参加申込者数は延べ40万人、14倍もの競争倍率と多数の応募をいただき、万博の熱気が感じられたところ。スタッフも同窓会のように盛り上がった。こうした記念のイベントを通じて、大阪・関西万博の魅力や体験を振り返って、楽しみながら万博の成果について考え、未来につなげることは非常に重要だと思っている。10月13日頃にも、閉幕1周年を記念するイベントを予定しているが、その際には、万博の万博たるゆえんである、参加国がこのイベントにしっかり参加してくれるように、今からしっかり準備をしていきたい。博覧会協会主催のイベント以外の支援について、先日、1周年記念イベントの時にも、テーマ事業プロデューサーの方々を中心に取組の紹介が多くあった。アフター万博としてのイベントの中でも非常に重要なものとして、しっかりと支援をしていくことが万博で作られたつながり、あるいは万博を契機とした創造活動を広げ深めていく上で非常に重要であると考えている。2点目は博覧会協会の持っている運営に関するデータやノウハウの知財について、後継団体に引き継ぐことになっているが、次期博であるベオグレードやリヤドだけでなく、今後、万博を主催する可能性があるASEANの国々などへの支援にも役立てられるように、後継団体としてしっかりと取り組んでほしい。報告書の中でも今後、具体的な体制を検討決定していくという記載があるが、しっかりと体制を決めて狙いを定めておくことでスムーズに実行できるようにしてほしいと思う。【石毛事務総長】

○大阪・関西では、先月末に経済界、国、関西広域連合、大阪府市のトップの参加のもと、オール関西で万博レガシーを展開する体制として未来創造会議を設置したところ。地元経済界の立場から3点申し上げたい。1点目は、最先端技術等の実装化・産業化について。未来創造会議では、当面、次世代モビリティ、再生医療、カーボンニュートラル、スタートアップの4つの分野を中心に実装化・産業化に取り組む予定であり、それぞれの分野に携わる事業者をはじめ、専門家の皆様の意見を伺いながら、支援内容、時間軸等について検討を重ねているところ。現在、国において検討が進められている成長戦略や地域未来戦略をはじめ、国の政策パッケージと連携しながら、レガシーの社会実装に取り組んでまいりたいと思う。2点目は広域観光の促進について。海外における関西の認知度や訪問意向度の高まりを好機と捉えた活動が重要である。関西観光本部では万博での成果を最大限に活用し、レガシーとして関西の広域観光を推進する戦略「関西ツーリズムグランドデザイン 2030」を策定し、4月よりスタートした。関西観光本部が中心となって、関西一円の広域観光を高みに引き上げ観光を関西経済の牽引役の一つに育ててまいりたい。3点目は万博剰余金の扱いについて。報告書（案）では、大阪・関西ワイドで取り組むものについて具体的な使途、実施体制の検討、決定する枠組みとして、未来創造会議を位置づけていただいたことに感謝申し上げる。配分の比率の考え方についても、3つの取組の柱、そして大阪・関西ワイド、グローバル・ナショナルワイドの観点からバランスが取れた内容になっているものと考えている。大阪・関西としては、限られた剰余金を万博レガシー事業の財源としてしっかりと有効活用し、バランスも考えながらしっかりと我が国の成長発展につなげていくべく、引き続き国のコミットもいただきながら、関係者間で議論を進めていきたいと考えている。【松本会長】

○大きな点を一つ、それに関係する具体的なことを3点申し上げる。大きな点は、レガシーをどう残していくのかという議論の中で、次世代という概念を、もう少し長いスパンで考えたいということ。本当のレガシーは、ここにいる私たちがいなくなったあとに芽吹くものなのではないかと思う。万博の思い出、記憶を直接どのようなコンテンツで残すかということよりも間接的な話だが、直接の記憶が薄れていく中で、どう社会が変化したのかということこそがレガシー。何世代も後の未来への意識についても報告書に盛り込んでおきたいと考える。具体的な点は、まず別添資料2の3ページ目「未来世代の価値体験機会を拡大」のなかの「万博の理念を継承する文化、芸術、学術、教育活動を継続的に支援する。」という部分について。レガシー継承のスパンの長さという点でも、特に重要な部分であるため、安易に既存の助成プログラムに落とし込むのではなく、後世への残し方をこれから熟考して実施してほしい。またとくに、助成活動では近年、分野細分化の傾向が強まる中で、万博のレガシー、理念を継承することは、真の分野横断、総合性を徹底して追求できる、現代社会における貴重なチャンスだと思う。そのことをぜひ報告書に記載い

ただきたい。2点目は、同じ欄の最下段「将来の万博開催を見据えた国際社会へのレガシーの還元」の部分。この項目を立てていただいて大変よかったと思っているが、ここは日本が将来開催することを言っているのではなく、まだ万博を開催したことのない多くの国々がこれから万博を経験していくように、そして私たちが、そのためにこの万博のレガシーを国際社会へ還元していくのだという思いがしっかり伝わるよう、冒頭部分の「将来の万博開催を見据え」の前に「多様な国々による」と追記していただきたい。3点目は、別添資料2の5ページ目末尾、博覧会協会の所有する運営の記録データ等々の維持管理に関する部分について、これはまさに今生きている私たちが誰もいなくなった後にも引き継がれていかなければならない最重要の項目である。今後の実行にあたり、確実に管理していくとともに、広く一般の方々が参照しづらくならないよう、公共性の高い形で、様々な人が活用することができるような社会への提供の仕方についても熟考いただきたい。【佐野委員】

○3点申し上げる。1点目は、資料について、剰余金や来場者といった客観性の高い数値だけではなく、有形無形の、そこで生まれたもの、レガシー、成果を言葉として、報告書に記録したということについて、非常に評価できる。また、剰余金の活用に関しては、ナショナル・グローバルという視点を入れて、レガシーを幅広く、深く伝えていくという視点がうかがえる。2点目は、万博の成果について、これから万博の成果は、社会実装の中で、国民、他の国の方も含めて広く実感していくことになると思うが、その一方で、実際に来られなかった方、行けなかった方に対して、万博の成果がどのように享受されるのかについても、報告書にきっちり記載されており、非常に心強いことだと思う。私たちが、結果として取り残してしまった、万博に来なかった方にも、この万博の成果が、的確に確実に届くようにしていただきたい。長期的に万博の成果が現れる社会実装も重要だが、次世代だけでなく、今回、行けなかった人にとっても、万博がどういう意味を持っていたのか、そしてそれによって私たちがどう変わっていくのか、世界がどう変わっていくのかということを見える化することも重要だと思う。今を生きる子どもたちがそういう視点を持つことが、次の展開への原動力ともなり得るのではないか。最後に、大阪・関西万博は、生成AIの転換期や気候変動など、人類史の転換点、大きなターニングポイントとなり得る年に開催され、同時に、いのちというものを、真っ向から見据え、共に捉え、共に向き合ったということに非常に深い意味があると思う。テクノロジーや技術がいくら進展しても、人間は他の生き物とも関わりながら、どう生きて、生かされて、生かしていくのか、その問いからは逃げることはできない。そういった意味で、この万博は、今までにはない、そしておそらくこれからも、生まれるのが難しいのではないかと考えており、この大阪・関西万博そのものが持っているテーマの深みについても、成果として、レガシーとして伝えていけるような取組を期待する。【池坊委員】

○万博のレガシーについて、ソフト、ハード様々あるかと思うが、この万博の意義、目的を問い続けていくことが非常に重要だと思う。また、中東情勢がこのような中ではあるが、万博そのものの意義について、横浜グリーンエクスポ、ベオグラード博、そして中東のリヤド博へと、万博そのものにどのような意味があり、これからの万博とともに、何ができるかというような観点に触れていくことも必要かと思う。また、剰余金については、透明性、公平性、公正性が非常に大切であり、グローバル・ナショナルワイド、大阪・関西ワイドにバランスよく配分することに賛同する。大阪商工会議所では、万博で披露されたイノベーション、新技術の社会実装と事業化に向け、全力を注いでいく所存。【鳥井会頭】

○報告書について異論なし。その上で、3点申し上げる。1点目は、これだけの成果、レガシーの価値がある中で、今後の事業に関するフォローアップ、マニュアル化、モニタリングの仕組みを考えるべき。また、コミュニケーションについて、メディア対応も含め、開幕前も非常に苦しい部分もあったかと思うが、閉幕後にも、いかにコミュニケーションを展開していくかが、万博の意義を改めて、より広く理解してもらうことにつながると思う。携わった人の温度感と、そうでない人とのギャップがあるので、そこはメディアコミュニケーションが、非常に効果を発揮で

きる部分だと思う。2点目について、今後の万博に将来的に参画する企業、団体に向けてのコミュニケーションをとるとことも非常に大切。今回の万博では、民間企業の立場として、ウーマンエンパワーメント、ジェンダーエクイティというテーマに携わり、国内外の幅広いステークホルダーの方々とイディアル、エンゲージメントを図ることができ、その後の活動にもつながっている。今後また違う企業、団体がこうした活動に関心を持ってほしいという思いも込め、万博に関わる意義を改めて、広くコミュニケーションしていくことの重要性を感じた。3点目は、今後の剰余金の活用にあたり、万博においても多分にあった、実験的で、チャレンジする精神、そしてすべてのステークホルダーに開かれた精神、アクセシビリティの精神を維持した形での実装に期待したい。【宮地委員】

○レガシー展開の大きな方向性として、つながりの拡大・発展、創造活動の深化・展開、場の記憶の継承・展開という3つ柱と、グローバル・ナショナルワイド、大阪・関西ワイドの2つの軸を掛け合わせ、レガシーをより実行化していこうという方向性に賛成。大阪・関西ではレガシーを実装化していく準備として、様々な取組を進めているところ。とりわけ最先端技術を実装化、産業化していくことが重要だという観点から、実行主体として、経済界、国、関西広域連合、大阪府市のトップによる未来創造会議を立ち上げた。2回目の会議実施もすでに予定しており、近々、法人設立も考えていく。剰余金の活用は、博覧会協会の清算が終わったあとが原則だが、アフター万博は万博閉幕後からすでに始まっており、万博に素晴らしい思いを持ち、様々なものをさらに生み出していきたいと思う人が多くいる中で、そのパワー、熱量があるうちに、取組を進めていきたい。未来創造会議も立ち上げたのも、こうしたことのスタートの意味がある。博覧会協会の清算までの2年間、この報告書にある後援名義や、ミyakumiyakumiyakumiyaku活用に加え、各プロデューサーや、それ以外のプレイヤーも含め、レガシーを発展させたいという強い思いが多くある状況で、剰余金の活用を一定柔軟に考え、あるいはその仕組みを検討してもよいのではないかと。清算を進める一方で、レガシーを膨らますことを、柔軟にスピード感を持って考えるという手も、ぜひ検討してもらいたい。この2年間を、いかに大事に使うのかを、未来創造会議においても、また国においても、検討していくべきと思う。【吉村知事】

○山極委員の発言にあった、小さなつながり、文化・地域のつながりをつくる点について、大阪府では、万博を契機に11の国、都市等とMOUや姉妹都市提携等を結んだ。この一つ一つが、スタートアップ、文化、ヘルスケアという形で、具体的な戦略として落とし込むことができている。これも万博を契機に、各国、各都市とつながりができたという事例である。関西全体としても、世界とつながった非常に重要な機会になった。また、未来創造会議を関西で立ち上げており、この成果検証委員会で示されたレガシー展開の三つの柱に沿って、剰余金の具体的な用途等について検討していきたい。万博で披露された最先端技術の実装化、産業化は、非常に重要な取組であり、大阪市も空飛ぶクルマなど、次世代モビリティの実現に向けた取組やスタートアップ企業の交流促進、支援拠点の機能強化に努めているところであり、社会実装を後押ししていきたいと思っている。空飛ぶクルマは、大阪・関西での連携強化、さらに瀬戸内など西日本での連携などもしっかり進めていきたい。また、夢洲の「場の記憶」の継承・展開についても、非常に重要。夢洲全体で、官民が一体となって、万博の記録や成果を日本、そして世界へ発信する機能の導入を目指している。ビジネスや文化など、様々な交流の場を創出するため、とりわけ大屋根リングの残置部分周辺に整備する記念公園ゾーンが大きなポイントとなる。今年度、地域未来交付金を活用し調査を行い、精査の上で具体的な整備を進める。引き続き、関係機関で連携し、持続的な成長に向けて全力で取り組みたい。【横山市長】

○先日4月12日の万博開幕1周年イベントに参加した際、万博の熱気が全く衰えていないこと、参加した方々の記憶の中に、あるいは生活の中に万博がしっかり根ざしていることを実感した。この成果検証委員会でも、未来に向けてレガシーを様々な形で継承していくことが報告書としてまとまったことにより、一般の方々も含め、万博の記憶がしっかり継承されていくことが大変喜ばしい。年に一度あるいは4月と10月の2度でも、周年イベントを、民間の草の根的に続けて

いくことができれば、50年後、100年後まで万博の祭りが続き、歴史的な行事になるのではないかと考えており、民間含め、それぞれの主体でしっかり引き継いでいければと思う。また、夢洲の場の記憶をどう継承していくかについても、報告書にしっかり盛り込まれており、これを受け、今後の夢洲のさらなる発展を期待している。【藤本委員】

○第1回、第2回の会議の場において、万博で生まれた機運とレガシーを継承する重要性、剰余金配分におけるハード・ソフト両面についてバランスの取れた配分およびグローバル・ナショナルワイドと大阪・関西ワイドの2つの視点と3つの柱を整理することについて意見を述べた。本日提示された報告書（案）には、概ね意見が反映されたものと評価している。その上で2点申し上げる。1点目は剰余金の清算について、地元経済界では既に万博を契機とした取組を進めていることから、取組の継続に影響が生じぬよう支援をお願いしたい。2点目はレガシーの継承について、大阪・関西万博を通じて日本の国力を世界に向けて発信した成果を一過性に終わらせず、継続的な行動に繋げていくことが必要である。来年横浜で開催される国際園芸博覧会も成功裏に終わることができるよう、引き続き関係者のお力添えをお願いする。【小林会頭 ※欠席のため事務局が代読】

○多数のご意見を頂戴し感謝申し上げます。こうしてご議論をいただいた上で報告書はまとめられていくが、これをどう執行していくかが次の大きな課題だと思っている。五神委員からご意見があった、技術面における2025年の重要性を認識し、国でもフォローアップしながら実行していきたい。西尾委員、藤原委員からあったように、残せるものはしっかり残し、次世代および来場できなかった方にも届けられるよう活用していきたい。未来にどう残っていくのか長期的な視点、時間軸を持って対応していくべきだと考えている。吉村知事、小林会頭からもあったように、直近2年間を無駄にせぬよう、それぞれの主体で今から柔軟かつ積極的に取り組んでいくことが重要であり、相談しながら進めていきたい。西尾委員から指摘のあった記録データ、ノウハウについても、しっかりと残し、様々な側面で活用できるように取り組んでまいりたい。また、西尾委員からご指摘いただいた来場できなかった、しなかった方々の理由や障壁について調査が必要ではないかというご意見については、アフター万博イベントでのアンケートを分析するなどして今後どう活かしていくべきか考えたい。万博というものがもたらしたものの、そこから生まれたものは残り続けていく。それをさらに活かしていくという部分はこの委員会で議論いただいた内容である。今日のご指摘を踏まえて、事務局としてどう執行していくかに重点を置いて取組を進めて参りたい。【事務局】

○これまでの委員会において、委員並びに関係者の皆様から活発かつ建設的な意見、議論をいただいたことに、心より感謝申し上げます。本万博では「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、160を超える国・地域が半年間にわたり集い、「いのち」について共に考え、行動したことは大きな成果であったと考えている。この成果を一過性に終わらせることなく後世に引き継ぐため、報告書にあるとおり、グローバル・ナショナルワイド及び大阪・関西ワイドにおいて、「つながり」の発展・拡大、創造活動の進化・展開、夢洲の「場の記憶」の継承という三つの柱で取り組むべきである。グローバル・ナショナルワイドの取組は関係機関と連携して進めていただきたい。大阪・関西ワイドでは未来創造会議を中心に、国と地元が一体となって取り組んでもらえることを心強く思っている。博覧会協会会長としても、アフター万博に向けた取組を継続し、レガシーの展開を後押ししていく。本日ご参集の皆様においても、レガシー展開に向けた取組を一層推進いただくよう、よろしく願います。【十倉座長】

○閉会にあたり一言御挨拶申し上げます。万博の開催を振り返り、開幕前の日本館開館式への出席をはじめ、会期中には多くのパビリオンを視察し、新たな技術や価値観に触れる貴重な機会を得た。また、米国のナショナルデーでは旧知のベッセント財務長官をホストし、各国の要人が集う国際イベントにも参加した。これらの経験を通じ、世界の人々が分野や立場、国境を越えて集い、交流できる場としての万博の意義、そして「多様でありながら、ひとつ」という万博のメッセージ

を深く実感した。不透明な国際情勢の中にあっても、この意義と価値は決して色あせるものではなく、次世代へ確実に引き継いでいくべきである。準備段階では赤字を指摘された時期もあったが、苦しい時期を頑張り抜いた皆様のご協力があったので大成功であると思う。こうして剰余金の活用方針を議論できるのは、一時期を考えると夢のような話であり、本当によかったと思うとともに、改めて開催・運営に携わった全ての関係者の皆様に心より感謝申し上げる。本委員会においても、有識者や関係者の皆様による建設的な議論の積み重ねにより、レガシー展開の3つの柱と、剰余金をそれぞれ均等に配分する方針を盛り込んだ報告書（案）が取りまとめられた。今後は、この成果を踏まえ、博覧会協会や関係者の皆様に着実な取組を進めていただくとともに、政府としても大阪・関西をはじめとする関係者と連携し、万博の成果を一過性に終わらせることなく、社会に活かしながらレガシーの継承・発展に取り組んでまいる。最後に、準備段階から一貫してご尽力いただいた十倉座長をはじめ、本日ご出席の皆様に深く御礼申し上げます。【赤澤大臣締めくくり挨拶】

(以上)

(参考)

<出席者>

委員（五十音順・敬称略）：

十倉 雅和 2025年日本国際博覧会協会 会長 <座長>  
池坊 専好 華道家元池坊 次期家元  
五神 真 理化学研究所 理事長  
佐野 真由子 京都大学大学院 教授  
西尾 章治郎 国際高等研究所 所長  
藤本 壮介 大阪・関西万博 会場デザインプロデューサー  
藤原 紀香 日本館 名誉館長  
宮地 純 リシュモンジャパン合同会社 カルティエ 前プレジデント&CEO  
山極 壽一 総合地球環境学研究所 所長

関係者

吉村 洋文 大阪府知事  
横山 英幸 大阪市長  
松本 正義 関西経済連合会 会長  
鳥井 信吾 大阪商工会議所 会頭  
國部 毅 2025年日本国際博覧会協会財務委員会 委員長  
石毛 博行 2025年日本国際博覧会協会 事務総長

経済産業省

赤澤 亮正 経済産業大臣  
井野 俊郎 経済産業副大臣  
藤木 俊光 経済産業事務次官  
武田 家明 近畿経済産業局 局長  
松山 泰浩 首席国際博覧会統括調整官  
奥田 修司 商務・サービスグループ博覧会推進室長